

第Ⅲ部 今年度の事業内容と次年度以降の課題

1 委員会事業の概要

(1) 広島県合同輸血療法委員会の開催 (H28. 6. 25)

平成 23 年度の設置から 6 年目を迎えた「広島県合同輸血療法委員会」の活動として、6 月 25 日に委員会を開催した。委員会では、役員を選出、前年度の事業報告及び今年度の事業内容の検討を行い、各委員から了承を得た。

今年度の新規事業として、「輸血療法におけるヒヤリ・ハット事例」を収集し、医療従事者に還元する取組を行うほか、研究事業として輸血療法に関するアンケート調査及び訪問相談事業も引き続き実施することにも了承が得られた。

議事終了後、「輸血療法におけるヒヤリ・ハット事例」及び昨年度事業で作成した「輸血手帳ひろしま」に関して、各医療機関の出席委員から、状況等について発言を求め、それを踏まえて、出席者全体で意見交換を行った。

(詳細は、「第Ⅰ部 広島県合同輸血療法委員会」のとおり)

(2) 広島県合同輸血療法研修会の開催 (H29. 2. 18)

県内医療機関等から、237名（医師23名、薬剤師38名、看護師59名、臨床検査技師101名及びその他16名）の参加を得た。

今回の研修会では、委員会の取り組んでいる事業の報告として、輸血療法の状況に関するアンケート調査報告や、今年度事業である「輸血療法におけるヒヤリ・ハット事例」を医療現場に還元する取組として、収集した事例を分析し、輸血医療の主役の一人である看護師を対象とした報告を行った。県内医療機関の看護部門にも参加を呼び掛けた結果、多数の看護師の参加を得ることができた。

また、昨年度事業で作成した「輸血手帳ひろしま」の活用事例について、県内の3医療機関から事例発表していただいた。

さらに、特別講演として、東京医科大学 八王子医療センター 教授 田中朝志先生をお招きして、「数字で見る日本の輸血医療の実態」と題して御講演いただいた。

(詳細は、「第Ⅱ部 広島県合同輸血療法研修会」のとおり)

(3) 県内医療機関における輸血療法の標準化に向けた相談応需

平成 24 年度から医療機関を訪問して相談応需業務を行う事業を実施しており、今年度も県内の医療機関から「輸血療法に関すること」について相談応需の希望を募ったが、申込みがなかった。

(4) 幹事会の開催

今年度も引き続き、詳細な事業内容等は幹事会において調整しながら実施していく。

《幹事会構成》

(H28. 7. 14現在)

役職	氏名	所属	備考
委員長	藤井輝久	広島大学病院 輸血部長	医師
副委員長	岩戸康治	広島赤十字・原爆病院 輸血部長	医師
	高田 昇	中国電力株式会社中電病院 臨床検査科 副部長	医師
幹事	岡島正純	広島市立広島市民病院 副院長	医師
	日高秀邦	市立福山市民病院 中央手術部長	医師
	国分寺 晃	広島国際大学保健医療学部	教授
	荒谷千登美	呉共済病院検査部輸血科主任	臨床検査技師
国委託事業担当	田中純子	広島大学大学院医歯薬保健学研究院	教授
事務局	古本雅明	広島県赤十字血液センター学術・品質情報課	
	平岡一貴	広島県健康福祉局薬務課	
	徳永克志	広島県健康福祉局薬務課	

《幹事会の活動状況》

開催回	年月日	概要	出席者
第1回 (県赤十字 血液センター)	H28. 4. 23(土) 15:00～17:00	1 役員の選出について 2 平成 27 年度の報告 3 平成 28 年度広島県合同輸血療法委員会の開催について 4 平成 28 年度のアンケート実施 5 平成 28 年度委託事業への応募について (今年度の新規事業について) 6 訪問相談事業について 7 研修会 (1～2 月頃開催) について	高田, 藤井 岩戸, 荒谷 日高, 国分 寺 山本(昌) 古本, 山本 (論), 平岡 徳永
第2回 (県赤十字 血液センター)	H28. 9. 17(土) 15:00～17:00	1 厚生労働省「血液製剤適正化方策調査研究事業」の応募結果について 2 「ヒヤリ・ハット事例」の収集状況について 3 研修会の開催について 4 出張視察のチェックリストの修正について 5 血液製剤の使用実態調査の解析結果について(広島県分)	藤井, 岩戸 高田, 田中 日高, 荒谷 国分寺 山本(昌) 古本, 山本 (論), 平岡 徳永
第3回 (県赤十字 血液センター)	H29. 1. 7(土) 15:00～17:00	1 研修会について 2 「ヒヤリハット事例」報告について 3 来年度の取組について 4 幹事の交代について	藤井, 岩戸 高田, 日高, 荒谷, 山本 (昌), 古本 山本(論) 平岡, 徳永

2 「輸血療法に関するアンケート」調査報告（詳報）

広島県内の医療機関における輸血療法の現状と実態を把握するため、血液製剤の供給量の多い医療機関を対象にした調査を、平成23～27年度に引き続き実施した。

なお、昨年度に引き続き、自らの医療機関の状況を相対的に比較し、輸血療法の向上に資するため、同意が取得された回答について医療機関名や輸血実績等を公表することとした。

（調査の集計結果及び医療機関の回答状況（抜粋）は、以下を参照してください。）
遷に対応した活動・調査